

2018 年度 支部長会・各種委員会活動報告

・ 支部長会	1 頁
・ 将来構想委員会	2 頁
・ 財務委員会	3 頁
・ 企画・広報委員会	4 頁
・ 倫理審査委員会	5 頁
・ 利益相反委員会	6 頁
・ 編集委員会	7～8 頁
・ 全国集計委員会	9 頁
・ 認定医制度委員会	10～11 頁
・ 試験委員会	12 頁
・ ブラッシュアップ小委員会	13 頁
・ 教育・研修委員会	14～15 頁
・ 学会賞受賞者選考委員会	16 頁
・ 胃がん検診精度管理委員会	17～18 頁
・ 大腸がん検診精度管理委員会	19 頁
・ 検診従事者委員会	20～21 頁
・ 胃がん検診専門技師認定委員会	22 頁
・ 超音波検診委員会	23～24 頁
・ 大腸 CT 検査技師認定委員会	25～26 頁

支部長会

担当理事：渋谷 大助理事長

支部長：北海道 松浦邦彦 東北 加藤勝章 関東甲信越 入口陽介
 東海北陸 乾和郎 近畿 平井都始子 中国四国 吉原正治
 九州 松浦隆志

委員会開催：3回

1. 7支部における2018年度事業報告・会計報告ならびに2019年度事業計画・予算について報告があった。
2. 支部長交代について
平成30年度より、次のとおり支部長が交代となった。
東北支部 加藤 勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）
新年度令和1年より、次のとおり支部長が交代となった。
中国四国支部 井上 和彦（淳風会健康管理センター）
3. 支部会則について
支部会則について一部改正した。
4. 倫理指針周知について
倫理審査委員会より地方会における演題応募の際は、本学会の倫理指針を遵守するよう周知を行った。
5. 利益相反の周知について
利益相反について、学会発表者及び共同演者等全員のCOI自己申告および開示することが規定されているが、各地方会において理解不十分であるため、各支部会員へ規定を遵守するよう周知を行った。
6. 会計マニュアルについて
地方会及び研修会の会計マニュアルを一部改定した。

将来構想委員会

担当理事：渋谷大助理事長

委員：乾 和郎、斎藤 博、森山光彦、吉原正治

委員会開催：2回

1. 役員任期について
役員選出細則について検討を行い理事会に提案した。
2. 全衛連との精度管理事業について
学会との共同により、精度管理調査を6月から開始することとした。
3. 大腸 CT コロノグラフィ認定事業について
大腸 CT 検査技師の認定制度発足の提案があり、理事会に提案することとなった。
4. 認定医・専門医制度委員会について
同委員会の再編成について検討を行い、理事会に提案することとなった。
5. 機関誌のペーパーレス化について
ペーパーレス化の導入に伴い、一般会員 AB の統一と年会費値上げに加え、HP の会員ページの作成などを理事会に提案することとなった。

財務委員会

担当理事：乾 和郎

委員：永尾重昭、森山光彦、吉原正治

委員会開催：2 回

1. 2017 年度財務諸表の確認と審議
2. 2019 年度予算

本部の予算、7 支部予算の審議

1) 本部

○事業活動収入について

- ・正会員・一般会員は増加傾向にあり、会費収入は約 6 千万円余を見込んでいる。
- ・認定手数料は申請者、研修受講料は受講者がそれぞれ増加し増収を見込んでいる。
- ・学術集会収入では、協賛金は増収を見込み、参加費、広告、寄付金は減収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 9 百万円余増収となる見込みである。

○事業活動支出について

- ・広報費はパーソナルページ作成により支出増を見込んでいる。
- ・58 巻 1 号からオンラインジャーナル化となり印刷製本費、発送費は支出減を見込んでいる。
- ・総会では、会場費・旅費は支出増を見込み、会議費・運営費は支出減を見込んでいる。

以上の結果、事業・管理費支出は約 1 億 5 百万円を見込んでいる。

2) 支部

○収入について

- ・支部運営経費は会員数による本部からの補助金が主収入であるが、一部の支部で賛助会費（年会費）を徴収している。

○支出について

- ・支出は地方会、各種研修会の運営に伴う使途が主体であり、概ね昨年度実績を参考に計上されている。

3. 全体の収支について

法人全体では、正味財産期末残高は約 1 億 6 千万円余りとなり、前年度比で約 3 百万円余りの減収を見込んでいる。

4. 大会補助金について

JDDW からの交付金で運営していることから、大会補助金の必要性について検討した。

5. 一般会員について

一般会員（A・B）は会費に対し費用がかかり赤字となっている。オンラインジャーナル化すると同時に一般会員（A・B）を一本化し適正な年会費について検討した。

6. 会計マニュアルについて

総会・大会・支部・地方会・各種研修会における会計マニュアルを一部改訂した。

企画・広報委員会

担当理事：吉原正治

委員：鎌田智有、齋藤洋子、平井都始子、松浦隆志、鈴木康元、渡 二郎

委員会開催：1回

1. ホームページ運用状況報告

- ・学会 HP に一般市民向けコンテンツの充実を図る必要があるとの意見があったが、公開講座については著作権などの問題があり、今後検討する。

2. 学会の企画運営に関する事項について

委員より以下の意見があり、理事会で検討してもらうこととなった。

- ・基本的な倫理指針については、理解度が低いので今後、ケース例をあげて解説するなどの改善が必要である。
- ・発表者の倫理関係については、事前に倫理審査委員会で確認を行なってもらうかどうか。
- ・学術集会のプログラム委員には企画委員の参画に加え、倫理委員も加えてはどうか。

3. その他

今後のペーパーレス化に伴い、学会 HP の需要が高まるため内容の充実を図り、個人アクセスページや会員情報発信ツールとしてメールマガジンのためのメール登録率の向上を視野に入れた検討が必要である。

倫理審査委員会

担当理事：乾 和郎

委員：岡 政志、小林 隆、川口 淳、齋藤洋子、阪上順一

外部委員：若林昭子、亙理 茂

委員会開催：3 回（うち 2 回持ち回り）

1. 倫理審査について

4 件承認した。

2. 倫理指針について

- ・本学会倫理指針を制定した（施行日：2018 年 10 月 1 日）。その後 JDDW2019 の倫理指針に合わせ 2018 年 12 月 17 日に改正した（施行日：2019 年 1 月 16 日）。
- ・支部における倫理指針に関する周知を支部長に依頼した。

3. 審査手順書および関連書類について

- ・迅速審査該当研究審査手順書（第 6 条 3 項目）（第 8 条）を一部変更した。
- ・様式 3、様式 6、オプトアウトを一部変更した。なお、オプトアウトの雛形の定義は下記で合意された。
 - ①すでに終わった検査などのデータを用いる場合、倫理審査が通った日からおおむね 30 日以上の上にホームページや検診施設に掲示することでオプトアウトとする。
 - ②これから検査をする場合は、倫理審査が通った日から、研究終了日からまでホームページや検診施設に掲示することにより被験者に通知をする。

4. 倫理指針に関する講演会について

第 57 回総会（新潟）で倫理指針に関する講演会が開催された。

「今、臨床研究に何が求められ如何実施しなければいけないのか」

演者：久津見弘（滋賀医大 臨床研究開発センター）

司会：乾 和郎（倫理審査委員会担当理事）

利益相反委員会

顧問：渡邊能行

担当理事：濱島ちさと

委員：上野善一、西野義之、西田 博

外部委員：亙理 茂

委員会開催：1回

1. 利益相反指針の一部改正について検討した。

内科学会の改正に伴い、指針細則の第2条（COI 自己申告の基準について）に次の文言を追加した。

— ただし、以下に記載がない基準については、内科系関連学会の「医学系研究の利益相反に反する共通指針」に準ずるものとする。

2. 支部における利益相反指針の周知を図るため、支部長より地方会会長への周知をお願いする。

3. 外部委員について

外部委員として学会の司法書士、亙理 茂氏に就任を依頼した。

編集委員会

担当理事：西田 博

委員：石川 勉、伊藤高広、岡 政志、岡庭信司、金岡 繁、鎌田智有、阪上順一、鈴木康元、長浜隆司、野崎良一、
平井都始子、間部克裕、安田 貢

委員会開催：7回（うち6回持ち回り）

1. 原稿依頼について

司会者の推薦を受けた演題に依頼することになった。

- ・総会、大会：主題、一般演題（デジタルポスターセッション）は、司会（座長）推薦の演題。
- ・地方会：主題は、司会推薦の演題。

2. 投稿・査読状況について

(1) 年度別投稿数の推移 ＊種別は採用後、publishした段階のもの

年度	総投稿数	会長講演	総説	原著	経験	症例報告	この症例に学ぶ	Letter to the Editor
2016	37 投：15 依：22	2 投：0 依：2	2 投：1 依：1	24 投：7 依：17	1 投：0 依：1	7 投：6 依：1	0	1 投：1 依：0
2017	42 投：14 依：28	2 投：0 依：2	0	35 投：13 依：22	4 投：1 依：3	1 投：0 依：1	0	0
2018	34 投：12 依：22	1 依：1	1 投：0 依：1	25 投：8 依：17	3 投：1 依：2	4 投：3 依：1	0	0

(2) 2018年度論文種類別新規投稿数および採択論文数

（投稿期間 2018. 4. 1～2019. 3. 31、採択率 2019. 5. 10 現在）

注）審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

種別	新規投稿数	2018年度採択・不採択論文数 内訳		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	1	0	0	0%
総説	1	1	0	100%
原著	25	15	0	60%
経験	3	2	0	67%
症例報告	4	3	1	75%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	0	0	0	0%
計	34	21	1	62%

(3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

（2018. 4. 1～2019. 3. 31）

平均査読日数
27.3 日

3. 掲載内容について

1) 論文内容の最終確認は、持ち回り委員会に於いて行った。

2) 主な掲載は下記のとおりである。

- ・56 巻 3 号は巻末に「第 57 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・56 巻 suppl 号は「第 56 回大会（JDDW2018）プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・56 巻 5 号は、第 57 回総会の会長講演を掲載した。
- ・59 巻 6 号は委員会報告「平成 27 年度全国集計報告」「全国集計報告（第 57 回総会（新潟））」「平成 27 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告」を掲載した。

4. 投稿規定について

- ・予め倫理審査委員会での審査を受けていただくよう投稿規定を 2018 年 4 月 3 日に改正した（施行日：2018 年 6 月 1 施行）。なお、新たに投稿時に「カバーレター」（様式 4）の提出を求めることになった。
- ・COI 申告対象期間は 2 年間から 3 年間に変更し、2018 年 4 月 1 日より施行した。
- ・要旨の具体的な記載と共著者数について検討を行った。

5. 機関誌ペーパーレスについて

電子化の具体的な運用方法について検討を行った。

6. J-STAGE

巻頭言、総会会長報告、大会会長報告を 50 巻 1 号（2012 年）まで遡って搭載することになった。

7. 用語集改訂

前編集委員会の考え方と編集作業を引き継ぎ、2019 年公開を目標に改訂作業を行った。

8. その他

検索ヒット率の向上させるために医学中央雑誌刊行会に搭載した。

9. 機関誌掲載論文数

掲載論文数 26 編（内訳：投稿 12、依頼 14）

10. 機関誌掲載内訳

号	第 56 巻 3 号～第 57 巻 2 号 （2018 年度）	55 巻 3 号～第 56 巻 2 号 （2017 年度）	増 減 △
発刊号数	6 号+suppl	6 号+suppl	0 号
総頁数	828 頁	740 頁	88 頁
総説	0 編	0 編	0 編
原著	21 編	21 編	0 編
経験	4 編	1 編	3 編
症例報告	1 編	5 編	△4 編
この症例に学ぶ	0 編	0 編	0 編
Letter to the Editor	0 編	0 編	0 編
会長講演	0 編	2 編	0 編
特別講演	0 編	0 編	0 編
地方会抄録	8 編	6 編	2 編
委員会報告	3 編	0 編	3 編
附置研究会報告	0 編	1 編	△1 編
総会プログラム・抄録集	94 頁	127 頁	△33 頁
大会プログラム・抄録集	254 頁	332 頁	△78 頁

全国集計委員会

担 当 理 事：水口昌伸

顧 問：北川晋二

委 員：入口陽介、大黒隆司、小川眞広、大泉晴史、中島滋美、丹羽康正、藤谷幹浩、松浦隆志

幹 事：宮川国久

委員会開催：2回（うち持ち回り1回）

1. 2015 年度（平成 27 年）全国集計について

1) 回答協力施設について

- ・オンライン初年度である平成 27 年度は前年度より 38 減少し 375 施設となった。
- ・今回、施設からオンラインシステムの入力が難しいといった意見があった。特に個票に関しては、入力した個票に誤りがあっても修正出来ず、最初から入力し直すことになるので不便を感じる、などといった批判が多くあった。
- ・超音波検診の協力施設も 2014 年度は 129 あったが、2015 年度は 102 施設となった。発見がんに関しては、変わりがないという結果が出ている。
- ・2018 年は 2016 年度（平成 28 年）の集計調査となる。2016 年度から胃がん対策型内視鏡検診が導入されるので、委員には協力を呼びかけてもらいたい。

2) 集計結果について

- ・2014 年度（平成 26 年）集計結果は一昨年 JDDW で発表し、昨年はオンライン化に向けてのシステム構築作業ならびに 2015 年度（平成 27 年）調査を行った。
- ・2017 年 8 月からオンライン集計を開始し、2018 年の 3 月に集計結果の納品を予定していたが、集計業者側にトラブルが生じたため、集計結果の報告が 4 月末となり当初のスケジュールが遅れた。
- ・回答協力施設数が減少したため、受診者総数が胃で 80 万人、大腸で 110 万人と減少した。
- ・数値については大幅に変わった数値はなかったが、県単位で見ると数値の多い施設の協力がなかったため、集計結果は以前と差が出た。

2. 今後のオンラインスケジュールについて

- ・今までは JDDW で 1 年前の集計調査を発表していたが、今回のオンライン化を機に全国集計の発表は、総会で 2 年前の集計を行っていく。
- ・集計結果については、年度内で集計結果の納品を考えている。8 月より 2016 年度（平成 28 年）の集計を依頼する予定である。

3. 全国集計調査票と在庫廃棄について

個人情報の観点から、倉庫預け分の過去 5 年間の調査票および昭和 60 年度からの資料集在庫の廃棄について、理事会にて承認を得た。

認定医制度委員会

担当理事：一瀬雅夫

顧問：渋谷大助

副委員長：川村 洋、松田一夫

委員：入口陽介、大西洋英、岡 政志、金岡 繁、杉山和久、戸堀文雄、中島滋美、日山 亨、平賀聖久、藤谷幹浩

委員会開催：4回（うち3回持ち回り）

1. 委員会改編について

消化器がん検診総合認定医制度発足に伴い、認定医・専門医制度委員会と認定委員会の機能を併せ持つ、認定医制度委員会が発足された。認定医制度委員会は、認定医全体を整え、将来的に専門医制度に格上げすることを視野に入れた作業を行う共に従来の認定医、指導医、指導施設の委嘱の認定を行う。

2. 2018 年度新規認定医審査

支部審査委員会の結果を踏まえて認定基準を基に審査を行い、下記のとおり承認した。

東北支部 9 名 関東甲信越支部 10 名 東海北陸支部 4 名

近畿支部 6 名 中国四国支部 4 名 九州支部 4 名 計 37 名

3. 2018 年度新規指導医・指導施設審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 10 名 指導施設 4 施設

4. 2018 年度認定医更新審査結果

基準に基づいて認定更新審査した結果、下記のとおり承認した。

認定更新 128 名 終身 20 名 計 148 名

5. 2018 年度指導医・指導施設更新審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 37 名 指導施設 14 施設

6. 2018 年度指導施設状況確認

指導施設 119 施設における認定医・指導医の在籍状況の確認を行ったところ 109 施設は要件が満たされていた。要件が満たされず保留となった施設は 8 施設、辞退は 2 施設であった。

7. 日本消化器がん検診学会消化器がん検診総合認定医制度の発足

本学会消化器がん検診総合認定医制度が 2018 年 6 月 8 日に発足した。学会誌（57 巻 4 号）、ホームページで告知すると共

に認定医取得者に新制度の案内ハガキを送付した。

8. (区分毎の) 認定医制度規程一部改正について

消化器がん検診総合認定医制度発足に伴い、整合性を図るために改正した(施行日:2018年11月2日)。

9. 第1回総合認定医試験について

361名の合格を承認した。

10. 医師認定研修会と胃X線読影講習会の単位について

全日の医師研修会が整備されるまでは総会2日目午前の医師認定研修会を5単位、午後の胃X線読影講習会を5単位として認める。

11. その他

(区分毎の) 認定証に英文表記を記載することになった。

試験委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：2回

1. 第1回総合認定医試験実施について

1) 日時：2019年1月20日（日）13：00～15：45

2) 会場：砂防会館別館シェーンバッハ

3) 受験者：387名

4) スケジュール

12：00～12：45 受験者入室（12：50までに着席）

12：50～13：00 説明、問題冊子・解答用紙配布

13：00 講義および試験開始

前半（総論，胃）

13：00～13：20 総論の講義：松田一夫

13：20～13：35 総論の試験（10題）

13：35～13：55 胃の講義：井上和彦

13：55～14：10 胃の試験（10題）

14：15～14：25 休憩

後半（大腸，肝胆膵）

14：25～14：45 大腸の講義：西田 博

14：45～15：00 大腸の試験（10題）

15：00～15：20 肝胆膵の講義：乾 和郎

15：20～15：35 肝胆膵の試験（10題）

15：45 終了

5) マークシート読み込み結果に基づき、合格ラインの判定を行った。

2. 第2回総合認定医試験について

1) 開催日

2020年1月26日（日）に砂防会館シェーンバッハにて実施予定。

2) 試験前講義

第1回と同様の形式で行う。休憩時間は15分に変更する。

3) 作問

作問スケジュールは第1回と同様とする。

ブラッシュアップ小委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：1回

1. 第1回総合認定医試験問題について

総論、胃、大腸、肝胆膵の各分野から選出された問題について1問ずつ確認し、各10題を確定した。

主な修正点

- ・問題文、選択肢の文をできるだけ短くする。
- ・択肢は字数が多い順、また同じ字数の場合はあいうえお順、もしくはアルファベット順に並び替え
- ・文言の統一
- ・画像の差し替え
- ・重複問題の確認

教育・研修委員会

担当理事：井上和彦

副委員長：入口陽介

顧問：渋谷大助

委員：小川眞広、謝花典子、西野善一、丹羽康正、日山 亨、間部克裕、安田 貢

委員会開催：2回（うち持ち回り1回）、

1. 消化器がん検診総合認定医研修カリキュラムについて

消化器がん検診総合認定医研修カリキュラムを7月にホームページで公開した。

2. 2018年度認定医師認定研修会と胃X線読影講習会について

第57回総会（新潟）時に下記のとおり開催された、

・第33回医師研修会

開催日時：2018年6月9日（土）9：00～12：00

参加者：80名

プログラム

司会：河合 隆（東京医科大学病院 内視鏡センター）

総 論（60分） 中山富雄（大阪国際がんセンター）

胃 （30分） 入口陽介（東京都がん検診センター 消化器内科）

司会：鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター 松島クリニック）

大 腸（30分） 西田 博（アムスニューオータニクリニック）

肝胆膵（30分） 森山光彦（日本大学 消化器肝臓内科）

・第7回胃X線読影講習会

開催日時：2018年6月9日（土）13：30～17：00

参加者：70名

プログラム

講義1：背景胃粘膜診断（40分） 中島滋美（JCHO 滋賀病院）

講義2：胃癌のX線診断（40分） 中原慶太（佐賀県健康づくり財団）

読影演習オリエンテーション（30分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習（60分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習解説（20分） 渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

3. 2019年度医師認定研修会と胃X線読影講習会プログラムについて

第58回総会（岡山）時のプログラムを企画した。

・ 第34回医師認定研修会

開催日時：2019年6月8日（土）9:00～12:00

プログラム

司会：井上 和彦（教育・研修委員会委員長）

総 論（60分） 松田一夫（福井県健康管理協会）

胃 （30分） 安田 貢（KKR 高松病院）

大 腸（30分） 金岡 繁（浜松医療センター）

肝胆膵（30分） 平井都始子（奈良医科大学）

・ 第8回胃X線読影講習会

例年通り、胃がん検診精度管理委員会（胃X線読影講習会プログラム実施委員会）の企画で実施する。

4. 今後の研修会について

1) 医師認定研修会の全日開催について

新たな総合認定医制度の基準に基づき医師研修会を2020年度（第59回総会：福岡）より「総会2日目午後」と「総会3日目」の1日開催とし、読影講習会と一本化する。

2) 各支部での研修会について

各支部における医師研修会については、その扱いが統一されていないので今後は、消化器がん検診総合認定医カリキュラムに則り半日開催とし、総論、胃、大腸、肝胆膵の講義内容とする。なお、「総論」については総会時の医師認定研修会を録画し、各支部の研修会で聴講可能にすることが提案された。

5. JDDW 教育講演関連委員会報告

数年に1回でも取り上げてもらえるように要望を続けていく。

学会賞受賞者選考委員会

担当理事：濱島ちさと

委員：小野寺博義、謝花典子、西田 博、森山光彦

委員会開催：1 回

1. 有賀記念学会賞選考について

選考基準により厳正に審査した結果、次の 1 名を候補者として推薦し理事会で承認された。

○松本吏弘氏（自治医科大学付属さいたま医療センター消化器内科）

研究業績：X 線検診、検診未受診と対比した胃内視鏡検診による死亡率減少効果

2. 学術奨励賞選考について

日本消化器がん検診学会雑誌の掲載論文の中から優れた論文を委員より推薦を受け、選考を行い、理事会に答申した。

《受賞者と対象論文》

学術奨励賞 1 名

○井上 泉氏（東京海洋大学保健管理センター）

対象論文：メタボリック症候群関連因子の集積に伴う大腸腺腫リスク増強効果（55(6)）

3. 国際研究助成及び国際学会参加支援について

本年度は対象者なし

胃がん検診精度管理委員会

担当理事：松浦隆志

副委員長：加藤勝章

顧問：渋谷大助

委員：安保智典、伊藤高広、小田丈二、鎌田智有、平川克哉、水口昌伸、吉村理江、吉田諭史

委員会開催：5回（うち持ち回り3回）

1. 偶発症調査について

- ・平成27年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を56巻6号に掲載した。
- ・その他偶発症の定義は「治療や処置が必要なもの」とした。

2. 胃X線読影講習会について

第57回総会（新潟）時に下記のとおり開催された、

1) 第7回胃X線読影講習会

開催日時：2018年6月9日（土）13：30～17：00

参加者：70名

プログラム

講義1：背景胃粘膜診断（40分）

中島滋美（JCHO 滋賀病院）

講義2：胃癌のX線診断（40分）

中原慶太（佐賀県健康づくり財団）

読影演習オリエンテーション（30分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習（60分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

読影演習解説（20分）

渋谷大助（宮城県対がん協会がん検診センター）

2) 胃X線読影講習会の今後のあり方

- ・2022年までは従来の認定医を新規に取得することが可能なことから胃X線読影講習会は2022年まで開催する必要がある。
- ・再来年の総会（福岡）より全日の医師研修会が開催されるが、胃X線読影講習会をどのように組み入れるか検討する必要がある。

3. 認定技師による胃X線検診読影補助認定制度について

- ・胃X線検診読影補助認定制度（案）の策定。
- ・NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構と共同事業であるため、2018年10月5日に加藤副委員長とNPOとの打ち合わせ会議が行われた。
- ・次年度発足に向けて検診従事者委員会の意向を踏まえ、NPOとの交渉を進めていく。

4. 内視鏡検診の精度管理について

各自治体は対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアルを参考に対策型検診を実施しているが、より良い検診が実施できるようマニュアルを改訂したい。

5. 全衛連と共同での胃X線検診評価事業について

全国労働衛生団体連合会からの要請を受け、2018年度より共同事業として胃X線検査精度管理調査を実施した。

6. その他

全国集計に新カテゴリー分類を追加してはどうか、提案されたが、新カテゴリー分類が浸透されていないため、まずは附置研「胃X線検診のための読影判定区分の運用・評価に関する研究会」でアンケートを実施することが必要である。

大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：斎藤 博

顧問：樋渡信夫

委員：金岡 繁、鈴木康元、須田健夫、永田浩一、西田 博、野崎良一、松浦邦彦、松田一夫、松田尚久、山口和也

委員会開催：2回（うち大腸CT検査標準化に向けた意見交換会1回）

1. 大腸CTコロノグラフィー（CTC）の認定事業について

- ・大腸CT検査の標準化を目的とした認定制度設立（3種類：大腸CT検査認定医、大腸CT検査専門技師、大腸CT検査標準実施施設）に向け、規定や施行細則等の案をワーキンググループで作成した。
- ・医師の認定と施設認定については、学会全体で現在検討されている認定制度がどのようなものになるか、まだ決まっておらず、承認されない可能性が高いため、技師の認定制度のみ理事会に諮った。
- ・技術認定の意義を学問的に示す取り組みも必要である。例えば、技術が標準化している施設とそうでない施設で、どの程度 adverse effect に差があるかを全国調査で把握していくことが大切である。
- ・大腸CT検査標準化に向けた意見交換会

大腸CT検査読影医・読影支援技師認定制度の必要性和今後の進め方について、国内のハイボリュームセンターや早期に本検査を導入している実地診療施設の先生方にご参加頂き大腸がん検診精度管理委員会のメンバーと議論した。

参加者：服部昌志（医療法人山下病院）、八坂貴宏（長崎県上五島病院）、大腸がん検診精度管理委員会委員

2. 大腸がん検診マニュアル（2013年）の改訂について

大腸がん検診マニュアル（2013年）の改訂について検討した。対策型検診として内視鏡検診を行う場合の精度管理要件について新規に追加することになった。

第53回総会（2015年：大阪）の附置研究会と第54回大会（JDDW2016神戸）のパネルディスカッションでの議論を踏まえ、精度管理要件を具体的に検討する。

3. 大腸がん検診附置研究会（第57回総会：新潟）

当番世話人：西田 博（アムスニューオータニクリニック）

鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター 松島クリニック）

「精検受診率向上の阻害因子と対策」をテーマに議論がされた。

4. 大腸がん検診附置研究会（第58回総会）

当番世話人：金岡 繁（浜松医療センター 消化器内科）

山口和也（ちば県民保健予防財団 消化器内科）

テーマ：便潜血検査免疫法のカットオフ値を考える

検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担 当 理 事：松浦邦彦

委 員：萩原 武・小牟田学・小野寺紀代美（北海道） 加藤勝章・金子貴安・吾妻明子（東北）
小田丈二・見本真一・小川敬子（関東甲信越） 丹羽康正・西川 孝（東海北陸）
伊藤高広・中川泰二（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国） 満崎克彦・大石哲也・池田晶子（九州）

委員会開催：7回（うち持ち回り5回）

1. 2019 年度総会時の放射線フォーラムについて

1) プログラム

- ・シンポジウム「カテゴリー分類の運用～不確実所見を減らすために」
- ・症例検討会

2) 司会は、中国四国支部の安田 貢委員・大久保誠委員が推薦された。

2. 2018 年 第 3 回胃がん検診専門技師研修会について

2018 年 10 月 6 日（土）9：45～16：05 東京都千代田区日経ホールにて開催された。参加者人数は 274 名であった。

プログラム

- ・講 習 I 「見逃し（偽陰性）をなくすために」
講師：金子貴安 司会：大久保誠
- ・教育講演 I 「胃 X 線検診のための読影判定区分—胃炎を考慮したカテゴリー分類—」
講師：安保智典 司会：小牟田学
- ・ランチョンセミナー「最新の胃 X 線デジタル透視撮影システムのご紹介」
講師：吉川 修、遠藤 亜矢子 司会：宮田和則
- ・教育講演 II 「胃がん検診専門技師に必要な X 線・内視鏡画像の対比」
講師：入口陽介 司会：西川 孝
- ・基 調 講 演「除菌時代の胃 X 線・病理対比」
講師：市原 真 司会：見本真一
- ・症例検討会「アンサーパッドを用いた粘膜判定・カテゴリー判定のトレーニング」
講師：加藤勝章 司会：石本裕二

3. 2019 年 第 4 回胃がん検診専門技師研修会について

下記要綱にて第 4 回胃がん検診専門技師研修会を開催することになった。

日 時：2019 年 10 月 26 日（土）9：45～16：05

場 所：はまぎんホールヴィアマーレ

対 象 者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留中の者

受 講 料：3,000 円

定 員：400 名

申 込 期 間：2019 年 6 月 10 日（月）～7 月 31 日（水）

申 込 方 法：学会ホームページにてオンライン事前申込

付 与 単 位：胃がん検診専門技師認定更新 6 単位

実行委員長：松浦邦彦（日本消化器がん検診学会 検診従事者委員会委員長）

代表世話人：西川 孝（東海北陸）・見本真一（関東甲信越）

世 話 人：丹羽康正（医師・東海北陸）小牟田学（北海道）大友康孝（東北）中川泰二（近畿）
大久保誠（中国四国）石本裕二（九州）

会 計 監 査：伊藤高広（医師・近畿）

4. 東北地区委員の交代について

- ・金子貴安氏の退任により、大友康孝氏を委員に推薦され理事会で承認。6月より就任とした。

胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担 当 理 事：松浦邦彦

委 員：萩原 武・小牟田学（北海道） 加藤勝章・金子貴安（東北）

小田丈二・見本真一（関東甲信越） 丹羽康正・西川 孝（東海北陸）

伊藤高広・中川泰二（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国）

満崎克彦・石本裕司（九州）

委員会開催：1 回（持ち回り）

1. 2018 年度認定審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 222 名（合格者 222 名）

2) 222 名に認定証を交付した。

2. 2018 年度認定技師更新審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

更新該当者 553 名（合格者 429 名，不合格者 1 名，認定保留 85 名，認定取消 38 名）

なお，不合格者 1 名は，更新料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 更新合格者 553 名に認定証を交付した。

3. 更新単位「その他主催」研究会・研修会

1) 以下 1 つの研究会が承認された。

(1) 岩手胃がん X 線検診勉強会（東北）

超音波検診委員会

担当理事：平井都始子

顧問：田中幸子

委員：乾 和郎、岡庭信司、小川眞広、小島正久、中島美智子、水間美宏、三原修一

各支部委員：久居弘幸、千葉祐子（北海道） 小野寺博義、佐藤 務（東北）

若杉 聡、鳥海 修（関東甲信越） 廣岡芳樹、西川 徹（東海北陸）

西村重彦、牧島展海（近畿） 池田 敏、渡邊敏充（中国四国）

西 潤子、田中信次（九州）

委員会開催：3回（うち持ち回り2回）

1. 第58回総会（岡山）プログラムについて

次年度のワークショップ、超音波フォーラムなどを企画した。

○ワークショップ

「超音波検診判定マニュアルの実施基準を見直す」

司会：小川眞広（日本大学医学部内科学系 消化器肝臓内科学分野）

岩田好隆（東京女子医科大学東医療センター 検査科）

特別発言：平井都始子（奈良県立医科大学 総合画像診断センター）

○超音波フォーラム

・教育講演

「US スクリーニング検査と診療 US 境界」

畠 二郎（川崎医科大学 検査診断学（内視鏡・超音波））

司会：平井都始子（奈良県立医科大学 総合画像診断センター）

・症例検討会

「偽陰性癌を再検討する -偽陰性癌を適及的に見直す-」

司会：大竹宏治（日本赤十字社熊本健康管理センター）

西村重彦（住友病院 外科）

・ライブデモンストレーション

「私たちの撮像方法と撮像断面」

司会：岡庭信司（飯田市立病院 消化器内科）

千葉祐子（北海道労働保健管理協会 臨床検査部）

2. 腹部超音波検診判定マニュアル

1) 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂について

・腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループを選出した。

- ・キックオフミーティングを2018年11月2日（金）にTKP三宮ビジネスセンターで開催し、今後の進め方、関連学会等へのアンケート実施について検討した。

2) Q&A について

昨年作成したに Q&A をホームページで公開した。

大腸 CT 検査技師認定委員会

担当理事：斎藤 博

副委員長：永田浩一

委員：遠藤俊吾、鈴木康元、高林 健、富松英人、野崎良一、服部昌志、松浦邦彦、松田尚久、八坂貴宏、安田貴明

委員会開催：1 回

1. 大腸 CT 検査技師認定制度規程（案）について

1) 大腸 CT 検査技師認定

- ・会員歴は「申請時において継続 1 年以上 本学会の会員」とする。
- ・実務経験は比較的歴史の浅い検査法であることを加味し、「実務経験を 1 年以上」とする。
- ・自施設での読影トレーニングは消化管先進画像診断研究会が監修した「大腸 CT を身につける！症例で学ぶ大腸 CT 診断（監修：株式会社 シービーアール出版）」を指定テキストとする。ただし、監修に「日本消化器がん検診学会 大腸 CT 検査技師認定委員会」を含めること、COI の兼ね合いから本委員会に属する委員には印税が入らないようにする。
- ・撮影実績は 100 件以上とする。
- ・検査のカウント数は補助または監督として検査に携わった場合も含めるものとし、その正確性については所属長の捺印をもって担保する。
- ・大腸 CT 検査教育研修会および大腸 CT 検査ハンズオントレーニングコースは本学会総会で年に 1 回、支部例会の持ち回りで年に 1 回実施する。
- ・大腸 CT 検査教育研修会の内容は、総論と各論（前処置、腸管拡張、撮影法（低線量、線量記録）とする。
- ・大腸 CT 検査教育研修会および大腸 CT 検査ハンズオントレーニングコースの研修内容と研修時間は本学会総会と支部例会で共通とする。
- ・更新単位表の撮影実績の項目に検査目的の定義を明記する。
- ・大腸 CT 検査教育研修会および大腸 CT 検査ハンズオントレーニングコースの受講に際しては、それぞれに事前申し込みで受付を行い、それぞれに受講料（各 5,000 円程度）を徴収し研修証明証を発行するものとする。
- ・大腸 CT 検査ハンズオントレーニングコースおよび大腸 CT 検査教育研修会の講師は本委員会の委員を中心とし、過去の大規模臨床試験（Japanese National CT Colonography Trial や UMIN6665 など）の参加施設やハイボリュームセンターなどの医師または診療放射線技師を委員が必要に応じて講師として指名できるものとする。
- ・講師を含め認定を受ける診療放射線技師は、認定に際し減免などの優遇は認めず、規定通りの申請を行わなければならない。

2) 大腸 CT 検査技術認定施設

- ・本検査の標準化のために、施設認定の必要がある。
- ・施設認定を取るための必用要件として、技師認定を有する施設において、大腸 CT 検査の検査記録・撮影データ記録を 4 保存すること、本学会が実施する全国調査に回答・協力することを宣誓する書類の提出を必要とする。

2. 今後の予定

- ・2019年3月の理事会で認定制度の承認を目指す。承認後、速やかに制度の周知を開始する。
- ・2019年後半に地方会での大腸CT検査ハンズオントレーニングコース開催を目指す。
- ・2020年6月の総会における大腸CT検査教育講演会および大腸CT検査ハンズオントレーニングコースの開催を目指す。